



あなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2022年7月
No.32
Since 2020
JA秋田おばこ

秋田おばこ米
持続可能な農業の実践
for SDGs

稲を良く観察し、穂肥判断

今年は5/21以降の田植え圃場で茎数が少ない状況です。あきたこまちは幼穂形成期を迎えていることから、今ある茎でいかに収量を穫るかがポイントです。

また、7月中旬に東風、通称だし風に吹かれ続けた影響で葉色が低下しているように見えます。しかし、圃場によっては葉先は黄色く見えるものの、葉緑素計で計るとこの時期の色がある、というところがあります。葉色を計測する際は、今見えている葉よりも1段下の葉の色を見なければなりません。管内全体的に葉色が低下していて心配していると思いますが、周りの色に誤魔化されずに、必ずご自身の稲を良く観察し、穂肥実施の可否を判断してください。

穂肥判断のポイント

【留意点】草丈が平年よりも長く推移しているため倒伏の懸念あり。
中干しで田面を固くできたか否か。

5/20以前田植え

減数分裂期に入っていると
思われます。N1.0kg/10a
以内で穂肥をします。

5/21以降田植え

7/25以降の穂肥実施としますが、圃
場や品種、施肥によって、穂肥判断が分か
れます。JAへご相談ください。

葉色が落ち過ぎると、なかなか回復しないうえ、登熟期の気温が高温だった場合、稲が夏バテしてしまい品質低下に繋がります。倒伏の懸念もあるので、「葉色の維持」を目標として穂肥をしてください。

生育量の把握

生育調査の項目
①草丈 ②茎数
③葉数 ④葉色
カラースケール板を利用して
葉色を測定しましょう

水面
田面

現在伸びている葉
1枚下 2枚下
この葉の葉色を測定

約1cm
葉色カラースケール(水稲用)説明書より

葉色は2枚下の葉を見る!

出穂期予想	移植日 (中苗)	アメダス地点		
		大曲	角館	田沢湖
	5/15	7/29	8/1	8/4
	5/20	8/1	8/3	8/7
	5/25	8/4	8/6	8/10
	5/30	8/8	8/9	8/13

※7/14時点予想

LINE公式アカウント

「@ja-obako」で検索 稲作情報発信中！
友だち登録をお願いします。



タブレットでも！ 稲作情報が
あなたの手元に！
メルマガも始めました



Youtube

はじめました
チャンネル登録をお願いします

